

治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
ホームページ <http://zensuiren.org/>
お問い合わせ zensuiren@k2.dion.ne.jp
編集・発行 椿本和幸



治水神社 (岐阜県海津市海津町油島)

● 目 次

水防災意識社会再構築の加速化 塚原浩一 国土交通省水管理・国土保全局長	2
高尾川地下河川築造工事発進式(高尾川床上浸水対策特別緊急事業)	4
立野ダム本体建設工事起工式	8
河川愛護月間をかえりみて	13
「海岸愛護月間」について	14
東北地方治水大会の開催について	15
北陸地区治水大会の開催について	17
中部地方治水大会の開催について	19
近畿地方治水大会の開催について	21
四国地方治水大会の開催について	23
九州地方治水大会の開催について	26

水防災意識社会再構築の加速化



■ 国土交通省水管理・国土保全局長 塚原 浩一

7月31日付で水管理・国土保全局長を拝命しました塚原です。国土交通省本省河川計画課長時代から数えれば約2年ぶりの水管理・国土保全局勤務となりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

現在、水管理・国土保全局では、近年の豪雨災害の教訓を踏まえ、水防災意識社会の再構築に向けた取組みを推進しています。この取組みは、「施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生する」との認識に立って、社会全体でこれに備えるためのハード・ソフト対策を実施するものです。平成27年9月関東・東北豪雨を契機に、「水防災意識社会再構築ビジョン」を平成27年12月に策定し、その取組みに着手しています。

平成28年8月の台風第10号では、岩手県の小本川で要配慮者利用施設において入居者が逃げ遅れ、犠牲になるという痛ましい被害が発生しました。「逃げ遅れゼロ」と「社会経済被害の最小化」を実現するための抜本的な対策を講ずるため、昨年通常国会において水防法等の一部改正を行いました。この法改正を受けて、同年6月には、国・県管理河川において概ね5年間で実施する各種取組の方向性、進め方や国の支援等を緊急行動計画32項目としてとりまとめ、水防災意識社会の再構築に向けた取組みを中小河川も含めた全国の河川でさらに加速させています。

昨年発生した平成29年7月の九州北部豪雨等では、これまでに整備した施設は確実に効果を発揮し、

被害を防止・軽減した一方で、中小河川を中心に甚大な被害がありました。甚大な被害を受けた河川において、「九州北部緊急治水対策プロジェクト」として、平成34年度を目途に緊急的・集中的に治水機能を強化する改良復旧工事等を河川事業・砂防事業が連携しながら実施しております。また、これらの豪雨災害の特徴を踏まえて、昨年9月より全国の中小河川の緊急点検を行い、この点検結果を基に「中小河川緊急治水対策プロジェクト」をとりまとめ、平成32年度を目途に土砂・流木捕捉効果の高い透過型砂防堰堤等の整備、多数の家屋や重要な施設の浸水被害を解消するための河道の掘削等や洪水に特化した低コストの水位計（危機管理型水位計）の設置などのハード・ソフト対策を推進しているところです。

そのような中、平成30年7月豪雨により、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、広域的かつ同時多発的に河川のはん濫、がけ崩れ等が発生しました。死者221名、行方不明者9名、家屋の全半壊等18,740棟、家屋浸水28,009棟（8月8日時点）の極めて甚大な被害が生じました。ここに、改めてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被害に遭われた方々、いまだ避難生活を余儀なくされている方々に心からお見舞いを申し上げます。

今回の豪雨被害に対して、TEC-FORCE（緊急災

害対策派遣隊)や排水ポンプ車等を全国から派遣し、被災地の災害応急対応を実施するとともに、特に、高梁川水系小田川で堤防が決壊し、大規模な浸水被害が生じた岡山県倉敷市真備町においては、約1,200haの浸水を排水開始から3日間で概ね解消しました。その後小田川の堤防決壊2カ所及び法崩れ1カ所にて緊急復旧を実施し、7月15日には堤防締切盛土の施工が完了しました。その他応急復旧が必要な国管理河川についても25日までに全ての応急復旧が完了しました。県管理河川については、大規模な被災を受けた堤防等の河川管理施設で28日までに緊急的な復旧が完了し、その他の箇所についても応急復旧を実施しております。

また、政府で被災地の生活の再建と生業の再建に向けて、緊急に対応すべき施策が「生活・生業再建支援パッケージ」としてとりまとめられました。災害査定効率化等を図り災害復旧事業を迅速化し、また、二次災害を防止するため、河川の浚渫や樹木の撤去等を実施するとともに、溪流内における監視態勢の確保や流路整備等の応急対応を早急に実施していきます。また、8月3日に閣議決定された予備費においては、当該パッケージを踏まえ、平成30年7月豪雨を踏まえた緊急的な対応として、国管理河川の高梁川、肱川等の4河川並びに岡山県、広島県及び愛媛県の管理する河川において、河川の浚渫及び樹木の撤去を緊急的に実施することで、台風期に備え、早期に治水安全度の向上を図ってまいります。

今回の豪雨を踏まえた対応については、野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる情報提供等に関する検証等の場や高梁川水系小田川堤防調査委員会、実効性のある避難を確保するための土砂災害対策検討委員会等により分析や検証を進めているところです。被災地の方々が一日も早く元の暮らしを取り戻せるよう、被災地の復旧・復興を迅速に進めてまいります。

また、今回の平成30年7月豪雨において、のべ9,849人(8月7日時点)が派遣されたTEC-FORCEは、平成20年の創設以来10年目にあたります。これまで計88の自然災害に対して、のべ約7万人を越える隊員を派遣し、被災自治体が行う被災状況の迅速な把握、被害の拡大の防止、被災地の早期復旧等に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施するなど、大きな成果を上げてきており、平成26年には人事院

総裁賞「職域部門」を受賞しています。これらの活動については、被災自治体の首長さんからも高い評価をいただいているところです。大規模な自然災害が頻発する中で、TEC-FORCEによる被災自治体への技術的支援へのニーズが高まっており、今後より一層体制・機能の拡充・強化を図ってまいります。

気候変動の影響により水害・土砂災害・渇水被害の頻発・激甚化、切迫する巨大地震・津波災害等が懸念されているところですが、国土交通省の「現場力」を最大限活用し、国民の生命と財産を守るため、全力を挙げて、防災・減災対策に取り組んでまいります。皆様の引き続きのご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

高尾川地下河川築造工事発進式 (高尾川床上浸水対策特別緊急事業)

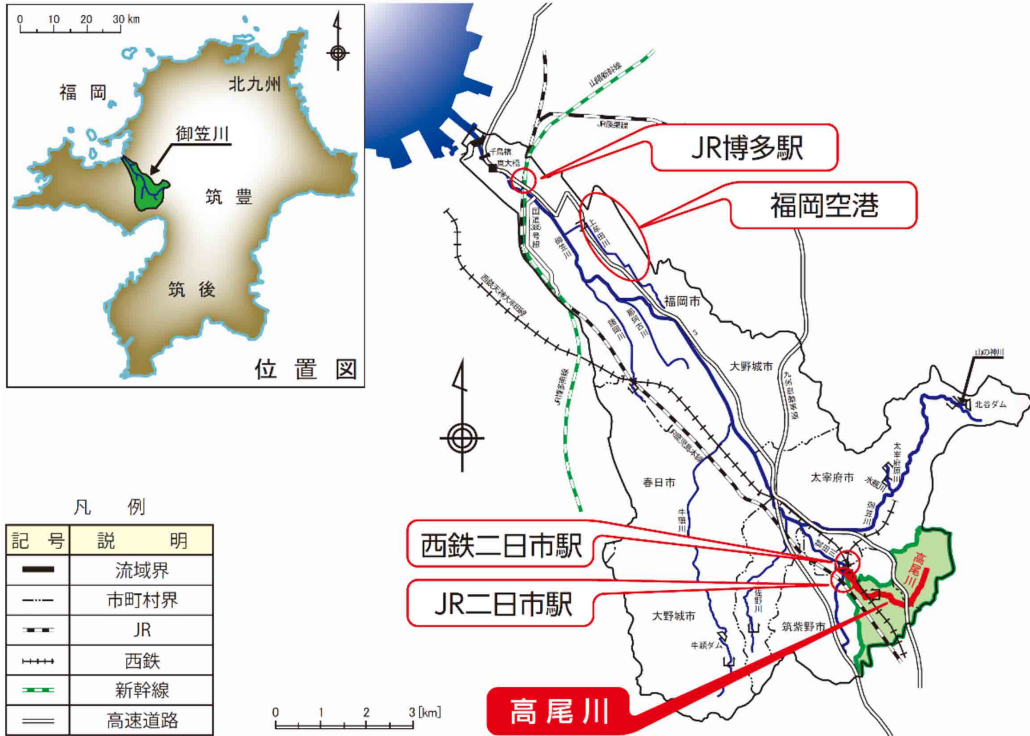
福岡県 県土整備部 河川整備課 課長技術補佐 金子喜年

1. はじめに

高尾川は、福岡県の北西部を南北に流れる御笠川の二次支川で、その源を太宰府市の高雄山に発し、筑紫野市の中心市街部を流れ鷺田川へと合流する流路延長約1.5km、流域面積約4.4km²の二級河川です。流域近傍は、西鉄二日市駅やJR二日市駅等の交通の要衝となっており、高尾川沿線には商店街からなる市街地が形成されており、その中には福岡県

最古の酒蔵もあります。

高尾川では、平成26年8月の出水により、河川が氾濫し、家屋の床上浸水被害など甚大な被害が発生したため、「高尾川床上浸水対策特別緊急事業」により平成27年度から概ね5ヶ年の河川整備に着手しました。今回、当事業の主要工事である地下河川の築造工事にあたり、シールドマシンの発進式を執り行いました。



2. 高尾川流域における出水

平成26年8月22日未明から朝にかけて、前線の南下に伴う発達した雨雲により福岡県では局地的に猛烈な雨が降りました。太宰府観測所(太宰府市)では、総降水量が168.0mmとなり、最大1時間降水量と最大3時間降水量で8月の過去最高値を記録しました。

また、解析雨量では22日4時30分までの1時間に筑紫野市付近、太宰府市付近、那珂川町付近で約110mmの猛烈な雨となり、气象台は記録的短時間大雨情報を発表しました。

この降雨により、福岡県設置の水道橋観測所で観測史上最高水位3.55mを記録し、床上浸水46戸、床下浸水46戸の浸水被害が発生しました。



高尾川浸水状況 1



高尾川浸水状況 2



河川監視カメラ (水道橋局)

3. 高尾川床上浸水対策特別緊急事業の概要

高尾川流域ではこの他にも、平成21年、平成22年、平成24年にも床上浸水を伴う被害が発生しており、福岡県では、平成24年度から下流鷺田川より河川改修事業に着手していました。しかし、平成26年の降雨により大規模な家屋浸水被害が再び発生したことから、上流の高尾川において緊急的に河川改修事業を実施するため、平成27年度より床上浸水対策特別緊急事業に着手しました。当事業では、地下河川整備、橋梁架替、築堤（特殊堤）を実施することで、流下能力を確保し、同規模の洪水に対し浸水被害の軽減を図ります。

- 事業内容：延長 L = 1,040m
 地下河川整備 L = 1,040m
 橋梁改築 N = 1 橋
 築堤（特殊堤） L = 200m
- 事業期間：平成27年度～平成31年度
- 総事業費：約7,800百万円

4. 地下河川整備の概要

高尾川は筑紫野市の中心市街地を流れていることから、沿川に建物が密集しており、現河道を拡幅した場合、多くの物件補償が発生し、多大な費用と時間が掛かることが想定されました。このことから短期間で一定の効果を発揮するため、河川の直下に地下河川を整備することとしました。地下河川工事は現河道に沿って整備するため、屈曲が連続する全国的にも稀な工事となります。

5. 発進式の概要

地下河川工事は平成29年3月に起工式を行い、流入口となる発進立坑に着手し、平成30年3月に築造工事が完了しました。その後、地下河川の本体となるトンネル部の掘進工事に必要な上屋の建設等を行い、今回、掘進工事に着手する準備が整ったことから平成30年8月5日に発進式を開催しました。

高尾川の地下河川は全国的にも稀な事例であることから式典には、地元期成会の方々の他に、全国治水砂防協会の古賀顧問、国土交通省水管理・国



地下河川計画平面図

土保全局の塚原局長、関係県議会議員、筑紫野市の藤田市長など関係者約120名に参加いただきました。式典は、筑紫野市のマスコットキャラクター「つくしちゃん」と、福岡県のマスコットキャラクター「エコトン」、福岡県河川協会のマスコットキャラクター「よみガエルくん」による、つくしのロックンロールダンスに始まり、小川知事による式辞、来賓を代表して、古賀顧問、井上県議会議員、塚原局長、藤田市長及び林田期成会会長からご祝辞をいただきました。

引き続き、事業計画について、那珂県土整備事務所の重富所長が説明を行いました。

その後、小川知事と来賓代表の12名の方により、シールド掘削機の起動セレモニーを行いました。起動セレモニーの後は、アトラクションとして地元、天拝勇太鼓による演奏とソーラン節が披露され、会場を盛り上げていただき、その後、施行者である株式会社安藤ハザマの小野会長より挨拶と地元小学生による絵画の表彰を行い、盛大な拍手をもって発進式が終了しました。



小川知事 挨拶

古賀顧問 祝辞

井上県議会議員 祝辞



塚原局長 祝辞

塚原局長 祝辞

林田期成会会長 祝辞



天拝勇太鼓による演奏



マスコットキャラクターによるダンス



絵画の表彰



シールド掘削機の起動セレモニー

6. おわりに

高尾川では、発進式を目前に控えた平成30年7月6日に「平成30年7月豪雨」の影響により、再度浸水被害が発生しました。そのことから、この地下河川の完成は地元住民の悲願であります。地域の安全・安心のため、一日も早い完成を目指し、今後の事業進捗を図り減災対策に努めてまいります。

最後になりますが、本地下河川築造工事の整備にあたり、ご理解、ご協力を頂きました地域の方々、関係自治体、事業に関わった全ての皆様に厚くお礼申し上げます。また、発災直後より技術的な指導や、事業の採択など多大な支援を賜りました国土交通省の皆様に改めて御礼申し上げます。

立野ダム本体建設工事起工式

国土交通省 九州地方整備局 立野ダム工事事務所

1. はじめに

立野ダムは、白川沿川の洪水被害を防ぐことを目的とした、平常時は水を貯めない洪水調節専用（流水型）ダムで、昭和28年6月洪水（6.26白川大水害）と同規模の洪水を安全に流すことを目指して、基準地点の代継橋地点における基本高水のピーク流量3,400m³/sを立野ダムにより400m³/sの洪水調節を行い計画高水流量3,000m³/sに低減し、洪水被害の防止・低減を図ります。白川は、熊本県の熊本市街地を貫流する河川で、流域の約8割を全国平均の約2倍の雨が降る阿蘇カルデラが占めており、阿蘇に降った雨が立野火口瀬で黒川と合流し、一気に急峻な中流を流れくだり僅か2時間程で人口・資産が集中する熊本市に達します。（図-1）また、洪水流には火山灰由来のヨナを大量に含んでおり、ひとたび氾濫すると水が退いた後に取り残された大量のヨナの処理（6.26白川大水害では、約半年を要した。）など甚大な被害が発生する河川です（写真-1）。近年においても平成24年7月九州北部豪雨で、流域の至る所で氾濫し、家屋の浸水被害など甚大な被害が発生したため（写真-2）、河川激甚災害対策特別緊急事業等により築堤や河道掘削、橋梁の架替、遊水地整備等を進めており、これらの河川整備と立野ダムの洪水調節により同規模の洪水を安全に流す対策が完了します。（図-2,3）



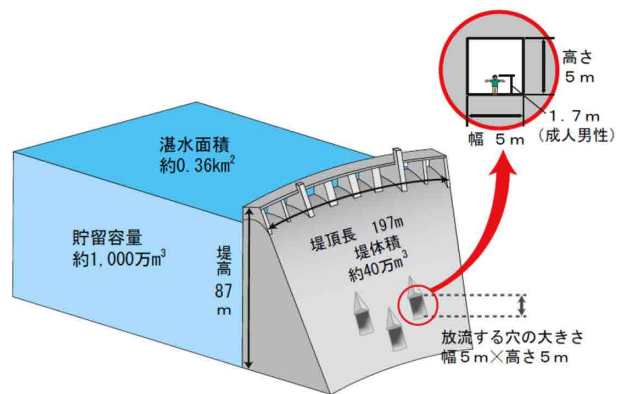
（写真-1）6.26白川大水害



（写真-2）平成24年7月九州北部豪雨



（図-1）白川流域概要図



（図-2）立野ダムイメージ図



(図-3) 完成イメージ (下流から)

2. 事業の進捗状況等

立野ダム建設事業については、昭和58年に建設事業に着手し、地域の方々のご協力のもと、事業を実施しており、平成26年11月から仮排水路トンネル工事に着手し、鋭意工事を進めておりましたが、平成28年4月に熊本地震が発生し、立野ダムサイト周辺の南阿蘇村において震度6強を観測しました。熊本地震発生直後からの詳細調査等において、ダムを建設する上で支障となる状況は確認されませんでした。熊本地震の規模が大きかったことを踏まえ、熊本地震後の立野ダム建設に関し、ダムサイト予定地の基礎岩盤の状況や断層変位等を調査・検討し、立野ダム建設に係る技術的な確認・評価を行うことを目的として、ダム、地盤、活断層、地すべり等各分野の第一人者7名で構成した「立野ダム建設に係る技術委員会」を設置し、技術的な確認・評価を行った結果、「熊本地震後も立野ダムの建設に支障となる技術的な課題はなく、立野ダムの建設は技術的に十分可能であると考えられる。」と提言を頂きました。(写真-3)また、並行して地震後の復旧等を鋭意進め、平成30年2月に西松・安藤ハザマ・青木あすなろ特定建設工事共同企業体とダム本体一期工事の契約を締結しました。



(写真-3) 技術委員会 (現地調査状況)

3. 起工式

今年、立野ダム建設事業着手より35年、未曾有の大水害で白川流域でも甚大な被害が発生した6.26白川大水害から65年と節目の年となるため「～6.26白川大水害から65年 二度とあの悲劇を繰り返さないために～」を旗印に掲げて、平成30年8月5日に立野ダム本体建設工事起工式を執り行いました。

式典には、地権者や地元の関係者をはじめ、坂本衆議院議員、木原衆議院議員、江田衆議院議員、矢上衆議院議員、馬場参議院議員、熊本県知事、熊本市長(代理)、南阿蘇村長、大津町長、菊陽町長、阿蘇市長、高森町長、西原村長、熊本県議会議長、熊本市議会議長、行政関係者等の約200名にご臨席頂きました。

式典開催前のオープニングアトラクションとして、建設地の南阿蘇村の伝統芸能である「阿蘇五岳太鼓」が勇壮に披露され力強く開式を迎えました。(写真-4)



(写真-4) 阿蘇五岳太鼓

九州地方整備局長の式辞では「先祖伝来の土地等を提供頂いた地権者や地元関係者に感謝の意を表するとともに、地域の皆様方から「立野ダムが出来て良かった。」と感じていただけるよう、事業者として立野ダム建設現場見学と阿蘇の豊かな自然環境の持つ観光資源を連動させたインフラツアーなど、阿蘇地域の地域振興にもしっかりと取り組み、立野ダム建設事業が熊本地震からの復旧・復興の一翼を担えるような様々な取り組みを行っていく。白川沿川の安全・安心の向上に向けて、平成34年度の完成に向けて着実に事業を進めていくことを誓う。」と述べました。(写真-5)



(写真-5) 式辞：九州地方整備局長

続いて、国土交通省水管理・国土保全局治水課長の挨拶、蒲島郁夫熊本県知事、坂本哲志衆議院議員、白川改修・立野ダム建設促進期成会会長の大西一史熊本市長(代理)からの祝辞があり、蒲島郁夫熊本県知事からは、「立野ダム建設事業では、熊本地震後の南阿蘇鉄道への支援、立野地区の水道水源の確保等、地域住民のインフラの復旧への尽力に感謝する。また、立野ダムの早期完成は下流域の市町村からも望まれており、地域振興の核となることも期待している。」との祝辞を頂きました。(写真-6)



(写真-6) 祝辞：熊本県知事

事務所長による事業経過報告があり、次に水害体験談として、6.26白川大水害で甚大な被害を被った熊本市の大江第3町内自治会の樋口克巳自治会長より、「昭和28年6月洪水で熊本市は甚大な被害が発生したが、その後白川の河川工事も進み周辺住民も安心していた。しかし、平成24年7月九州北部豪雨では、白川水位がどんどん上昇して堤防天端まであと少しのところまで上がってきた。その時は、6.26白川大水害の再来の危機感を覚えた。その後の国土交通省の説明で立野ダムが下流にもたらす役割を知り、下流に住む我々には立野ダムが必要であり、本体の完成が待ち遠しい気持ちで一杯。」という挨拶を頂きました。(写真-7)



(写真-7) 水害体験談：樋口自治会長

施工業者挨拶のあと、「鍬入式」を行いました。「鍬入式」では、地元の阿蘇五岳太鼓の伴奏と、「エイエイエイ」のかけ声とともに、砂山に鍬が入られ、さらに、事務所長の「着工!」と、工事課長の合図とともに「祝着工」の横断幕が建設予定地に掲げられました。最後に建設地代表として、吉良清一南阿蘇村長から「これまで多くの方々が携わり思いが詰まったダムがよいよ着工する。立野ダムが、治水・観光の両面で話題性の高いダムになるよう、今後とも関係各位のご支援・ご協力・ご指導をよろしく願いたい。」との挨拶があり、会場から大きな拍手が送られ閉式となりました。(写真-8～12)



(写真-8) 鍬入式



(写真-9) 着工の合図



(写真-10) 祝着工の横断幕



(写真-11) 集合写真（ドローンからの撮影）



(写真-12) パネル・模型展示

4. おわりに

立野ダムを建設する立野火口瀬は、「阿蘇くじゅう国立公園」に位置し、ユネスコ世界ジオパークに加盟認定された地域となっており、周辺には、阿蘇山の成り立ちを知ることができる「立野峡谷ジオサイト」も有していることから、関係自治体等と連携を図りながら景観や環境に配慮した丁寧な事業の実施に努めています。さらに、南阿蘇村の地域振興を目的に、立野ダム建設現場見学と阿蘇の豊富な自然環境のもつ

観光資源を連動させたインフラツアーの取り組みなど、立野ダム建設事業が地域の熊本地震からの復旧・復興の一翼を担えるような取り組みも継続し、平成34年度末の完成に向けて着実に事業を進めてまいります。(写真-13～17)



(写真-13) 世界ジオパーク審査員への説明
(阿蘇ジオパーク推進協議会との連携)



(写真-14) 看板設置
(阿蘇ジオパーク推進協議会との連携)



(写真-15) 「阿蘇・立野峡谷」ツーリズム推進協議会



(写真-16) マイ「ダムカード」フォトフレーム



(写真-17) 立野ダムカレー

河川愛護月間をかえりみて

国土交通省 水管理・国土保全局 治水課

国土交通省では、昭和49年から毎年7月を「河川愛護月間」と定め、河川愛護運動を実施しています。

本年度においても、「せせらぎに ぼくも魚も すきとおる」を推進標語として、各地方整備局、都道府県、市町村が主体となり、全国各地でポスター、チラシ等による広報活動をはじめ、河川のクリーン作戦、水生生物調査等、多様な活動が、地域住民、河川愛護団体、関係行政機関等の協力を得て実施され、多数の方々の参加をいただきました。

月間中に行われた行事等の成果を踏まえて、今後とも、地域住民、市民団体等と協力した流域全体の良好な河川環境の保全・再生への取り組みを積極的に推進するとともに、年間を通して、国民の河川愛護意識の醸成に努めてまいりたいと考えております。

また、これらの活動に加え、河川愛護月間推進特別事業として、「川遊び～川での思い出・川への思い」をテーマに絵と文章を組み合わせ描いた絵手紙の募集を9月28日まで行っており、関係機関誌等を通じ、引き続き広く募集活動を行っております。

募集についての詳細は、国土交通省水管理・国土保全局ホームページ中『河川愛護月間』(<http://www.mlit.go.jp/river/aigo/index.html>)に掲載しております。



カヌー体験



河川一斉清掃



水生生物調査



水辺の安全講習

「海岸愛護月間」について

国土交通省 水管理・国土保全局 海岸室

7月の「海岸愛護月間」では、「美しく、安全で、いきいきした海岸を目指して」を推進標語として、海岸清掃活動、環境保全・啓発活動、安全・避難訓練、各種イベント等を通じた海岸愛護活動が展開されました。

平成30年度の海岸愛護月間中には、全国各地において海岸協力団体をはじめ多くの方々に海岸清掃に参加いただくとともに、海開きやビーチバレー大会など数多くのイベントが開催されました。さらに、本年度より国土交通本省のツイッターを活用し、各地の海岸を紹介するとともに、海岸愛護の普及・啓発活動に取り組みました。

今後とも国土交通省においては、都道府県や市町村等とともに、地域住民、ボランティアの方々の協力を得て、海岸愛護の普及・啓発活動に努めて参ります。



月浜海岸（宮城県東松島市）



しらおい夏の海塾（北海道白老町）



本省ツイッターによる投稿



平成30年度海岸愛護月間ポスター

東北地方治水大会のご案内

平成30年10月9日（火）13:30～
秋田市 ホテルメトロポリタン秋田
事務局：秋田県建設部河川砂防課内

平成30年度東北地方治水大会の事務局を担当します秋田県から、本県のPRと大会のご案内をさせていただきます。県内外から多くの皆様のご参加をお待ちしております。

秋田県のすがた

「秋田」の地名は、「日本書紀」の中で、斉明4年（西暦658年）、阿倍比羅夫の水軍北上の記述に初めて現れています。その様な歴史を持つ秋田県は、首都東京のほぼ真北約450kmにあり、西は日本海に面しています。また、北京、ニューヨークなどとほぼ同じ北緯40度付近に位置し、総面積は11,638km²、全国では6番目の県土を誇っており、その約7割を森林が占めています。

東の県境では奥羽山脈と那須火山帯が重なるように縦走り、駒ヶ岳、栗駒山の諸火山と田沢湖、十和田湖の両カルデラ湖を形成しています。このため、多くの温泉が湧出しており、特に八幡平焼山山麓にある玉川温泉は日本一の酸性度を誇り、全国から数多くの湯治客が訪れています。

また、北の県境には、世界自然遺産に登録された白神山が、南の県境には、東北第二の高峰である鳥海山がそびえています。

さらに、海岸部には米代川、雄物川、子吉川の三大河川が作り出した大きな平野が広がっており、自然豊かな環境にあります。



日本一の深さを誇る田沢湖

河川の状況

秋田県が管理している河川は、一級水系では、雄物川、米代川、子吉川の3水系291河川、流路延長2,4

23.98km。二級水系では、馬場目川、白雪川、衣川、奈曾川等の7水系51河川、流路延長451.3km。あわせて10水系342河川、流路延長2,875.3kmを管理しています。

このうち要改修延長は2,055.2kmで、平成29年度末現在で延長945.1km（46.0%）が整備済みとなっています。

平成29年豪雨災害と事業実施状況

本県では、平成29年7月～8月の間に3回の大雨に見舞われました。その中でも平成29年7月22日から23日の梅雨前線による大雨では気象台の解析雨量（速報値）で1時間降水量が約100ミリに達する猛烈な降雨となりました。さらに、県内の広い範囲で断続的に激しい雨が降り続き、22日0時から23日24時までの総降水量は秋田市雄和で348.5ミリを記録しました。

この大雨により4水系25河川において越水や溢水による氾濫が発生しました。これによる被害は、公共土木施設の被害のほか、床上浸水が497戸、床下浸水が688戸、全壊家屋が3戸、半壊家屋が32戸、田畑等の浸水が約1,378haと甚大なものとなりました。

この被災を受け、特に被害の大きかった4河川について再度災害防止を目的とし、概ね4～5年間で緊急的な治水対策を実施するために、河川等災害関連事業、河川等災害復旧助成事業および河川災害復旧等関連緊急事業（復緊）等の改良復旧事業と河川改修事業などが採択されました。主な事業の概要はつぎのとおりです。

◆土買川 河川等災害関連事業

- ・河川名：雄物川水系土買川（つちかいがわ）
- ・事業箇所：大仙市刈和野地内
- ・事業延長：2.8km
- ・事業内容：築堤工、護岸工、橋梁工ほか



氾濫状況（土質川） [H29.7.24国際航業(株)撮影]

- ◆ 楢岡川 河川等災害復旧助成事業
 - ・ 河 川 名：雄物川水系楢岡川（ならおかがわ）
 - ・ 事業箇所：大仙市南外十二袋地内
 - ・ 事業延長：3.4km
 - ・ 事業内容：築堤工、護岸工、橋梁工、排水樋管工
- ◆ 上溝川 河川等災害復旧助成事業、復緊事業
 - ・ 河 川 名：雄物川水系上溝川（うわみぞがわ）
 - ・ 事業箇所：横手市大森町上溝～本郷地内
 - ・ 事業延長：5.0km
 - ・ 事業内容：築堤工、護岸工、橋梁工ほか
- ◆ 淀川 河川等災害関連事業、復緊事業
 - ・ 河 川 名：雄物川水系淀川（よどかわ）
 - ・ 事業箇所：大仙市協和下淀川～中淀川地内
 - ・ 事業延長：5.5km
 - ・ 事業内容：築堤工、河道掘削、橋梁工ほか



氾濫状況（淀川） [H29.7.24国際航業(株)撮影]

東北地方治水大会の開催

本大会の特別講演では、秋田地方気象台の台長であった和田幸一郎様に最新の気象情報や気象台が発する警報や特別警報をどう理解・判断し行政に活かせばよいのか等、ご講演いただく予定です。

最後に、秋田県の観光についてご紹介いたします。平成30年9月から11月の3ヶ月間、JR東日本の重点販売地域指定と連動して「秋の大型観光キャンペーン」を実施します。このキャンペーンでは秋の秋田ならではの自然・味覚・温泉をメインに秋田を訪れた観光客の皆様方に心をこめて「おもてなし」をし、本県の魅力を再発見して頂きたいと考えています。大会が開催される10月は、目にも鮮やかな秋の紅葉、きりたんぼ鍋をはじめとする郷土料理の数々、癒やしの空間である乳頭温泉郷をはじめとする県内各地の特色ある温泉等が皆さまをお待ちしております。皆様のご来県を心からお待ちしております。



雪駆け回る子どもの秋田犬

北陸地区治水大会の開催について

平成30年10月17日(水) 13:10～
金沢市 ホテル金沢
石川県土木部河川課

今年度、北陸地区治水大会の開催をお世話させていただきます石川県から、本県のPRも含めご案内申し上げます。関係各位の多数のご出席を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

石川県のすがた

石川県は本州のほぼ中央部、日本海側に位置し、地形は南北に細長く(東西約100km、南北約198km、海岸線約581km)、南は日本三名山の一つに称えらるる白山を水源とする手取川などで形作られた肥沃な加賀平野、北は日本海に突き出た能登半島からなり、白山国立公園、能登半島国立公園などに代表されるように豊かな自然に恵まれています。

また、海岸線は、波打ち際を車で走行できる千里浜海岸のほか、能登金剛や管々木海岸などの荒々しい能登外浦、七尾湾や九十九湾などの穏やかな能登内浦など、長く変化に富み、それぞれ特色ある地形を形成しています。

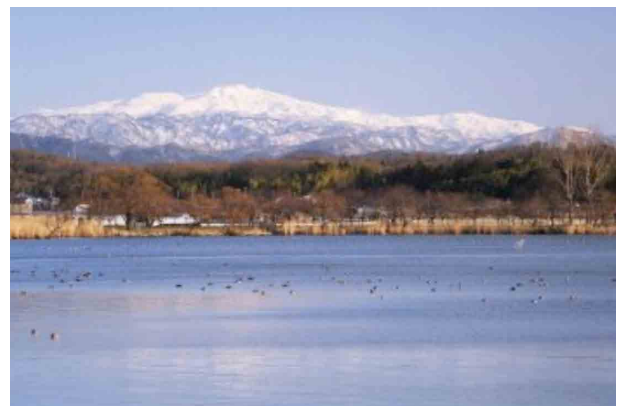
県内総人口は約114万人で、11市8町の行政区画で構成されております。県都金沢市は行政面・経済面で北陸3県の中核的な存在となっており、また、城下町の情緒を今に伝える街並みが至るところに残されているのが特徴です。近年は、現代アートやオーケストラなど新しい文化都市としての一面でも注目され、伝統と新しさが共存する街として、その魅力を世界中に発信しています。

気候は日本海側気候であり、西寄りの季節風が対馬暖流の影響で水蒸気を蓄え、白山山系など山岳部に当たり、夏は降雨、冬は降雪をもたらすことが多く、年間降水量は国内でも上位であり、北陸地方の常で冬期の日照時間が少ないことも特徴となっています。

平成27年3月、北陸新幹線が金沢まで開業し、三大都市圏から金沢市までいずれも約2時間半でアクセスできるようになりました。金沢開業からすでに3年が経過しておりますが、観光客の入り込みは、兼六園の入園者数や県内の主要温泉の宿泊者数が、引き続き、開業前を上回るなど、県内全域で開業効果が持続しております。



金沢駅鼓門・もてなしドーム



木場湯からみる白山

河川の概要

本県は南北に細長い半島地形という特色から、県内最大の手取川に代表されるように、水源から河口までの標高差が大きく距離が短い急流河川が多いという特徴を有しています。

河川は、一級河川として、手取川(長さ72km)と梯川(長さ42km)の2水系48河川があり、その他、二級河川の60水系164河川と併せ、県管理河川は62水系212河川となっています。さらに、準用河川を含めると121水系391河川を有しております。

近年の主な災害と事業実施状況

近年、全国各地において集中豪雨による被害が多発する中、急流河川が多い本県でも大きな被害が心配されています。過去には、平成20年7月に金沢市を流れる浅野川の上流部において最大60分雨量138mm、最大3時間雨量251mmを観測する局地的な集中豪雨により、上流部では土砂災害や浸水被害が発生するとともに、計画を上回る洪水が流下した金沢市の市街地でも、堤防の越水により甚大な浸水被害が発生しました。今年においても、7月初旬の梅雨前線豪雨により、加賀地域を中心に県内10観測所で観測史上最大の24時間雨量を記録しており、河川や道路などに被害が発生いたしました。また、8月末の能登地域を中心に記録的な短時間の集中豪雨により、河川で越水が生じ、避難指示等が相次ぐ事態となっています。

石川県では、ハード対策としては、浅野川水害を受けて、放水路でつながっている浅野川と犀川の一体的整備を集中的に実施した結果、金沢市中心市街地の治水安全度は向上しましたが、全県的に安全度を向上させるため、過去に大規模な被害が発生した河川、周辺に人家が連担している河川など、ひとたび災害が発生すると甚大な被害が想定される16河川について、重点的に抜本的な河川改修を実施しております。また、大規模水害が発生した際に、堤防の決壊を遅らせ、住民の避難時間を確保するため、築堤の背後に人家がある区間(26河川)の堤防の上部を舗装し強化する対策を、今年度から3年計画で進めております。さらに、堆積土砂の除去などにも積極的に取り組んできた結果、近年、県内各地で記録的な豪雨が相次ぐなかでも、浸水被害の防止や被害の低減につながっており、その効果を実感しております。

一方、ソフト対策としては、「逃げ遅れゼロ」を目指し、国、県、関係市町等からなる「大規模氾濫減災協議会」を昨年度までに県内5地区に設置し、関係機関が一体となって防災・減災への取組みを進めています。

具体的には、水害対策に関しては、想定される最大規模の降雨量に基づく「洪水浸水想定区域図」の公表・周知、水位計の増設による水位情報のきめ細やかな発信、水害から命を守るための防災教育の推進などに努め、市町と連携し、取り組むこととしています。

河川改修の事例（犀川：金沢市）



堆積土砂除去の事例（金腐川：金沢市）



北陸地区治水大会の開催

最後になりましたが、隔年で開催している北陸地区治水大会は、今年度、10月17日(水)に加賀百万石の城下町である金沢市で開催することとしております。

記念講演会では、「気候変動と気象現象の激化」と題し、東北大学特任教授・前気象庁長官の西出則武様にご講演をいただくこととしております。

この度、来県された皆様には、折角の機会ですので、日本三名園の一つである兼六園や金沢城公園など加賀百万石の歴史や文化、霊峰白山や世界農業遺産「能登の里山里海」をはじめとする豊かな自然、新鮮な山海の幸、さらには全国有数の温泉など、本県の多彩な魅力をご堪能いただきたいと思っております。

皆様のお越しを心からお待ち申し上げております。

中部地方治水大会の開催について

平成30年10月24日(水) 13:30～
岐阜市 ぎふ清流文化プラザ
岐阜県県土整備部河川課

平成30年度中部地方治水大会の事務局を担当します岐阜県から本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

岐阜県のすがた

本県は、日本のほぼ中央部に位置し、関市には日本の人口重心があります。面積は約10,621km²で、全国第7位の広さを誇り、数少ない内陸県の一つです。

また、北部の飛騨地域は、御嶽山、乗鞍岳、奥穂高岳等、標高3,000mを超える山々が連なっています。一方、南部の美濃地域は濃尾平野に木曾三川(木曾川、長良川、揖斐川)が流れ、「飛山濃水」と呼ばれています。長良川や木曾川の中流域は「日本の名水百選」に選ばれるなど、県内各地に清流が広がっています。水力発電に使用可能な包蔵水力全国1位を誇り、豊かな水に恵まれていることを象徴しています。昨今では関市にある通称モネの池がSNSで話題に上り、全国から観光客を集めています。

このようなことから、本県では、「清流の国ぎふ」づくりを掲げ、各種施策を進めています。



関市板取 名もなき池 (通称モネの池)

河川の現況

岐阜県には、日本海に注ぐ神通川、庄川、九頭竜川と太平洋に注ぐ木曾川、庄内川、矢作川の6水系があり、一級河川は437河川で、総延長は約3,326kmとなっています。

岐阜県は水の恩恵を受ける一方で、山間部を中心に年降水量が3,000mmを超えるなど自然条件が厳し

く、長年にわたり水害や土砂災害に苦しんでいる地域でもあります。



木曾川水系長良川

近年の浸水被害と治水対策

岐阜県では、ハード・ソフトの対策の総合的かつ中長期的な計画として、「新五流域総合治水対策プラン」を策定し、事業を進めています。また、国の「水防意識社会再構築ビジョン」に基づく水防災協議会も設置し、施設では防ぎきれない大洪水に備えた取組を進めています。

昨今、気候変動の影響もあり、県が管理する中小河川においても、水害が頻発化・激甚化しています。

本年発生した平成30年7月豪雨では、本州付近に停滞する梅雨前線に、南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、全国的な大雨となりました。岐阜県では初めて大雨特別警報が16市町村において発令され、統計開始以来、最大の降水量を観測する地点も数多くあり、長良川上流域にあるひるがの雨量観測所では7月3日から7月8日の間に、平年の7月の月降水量の約2倍にあたる1,058mmの降水量を観測しました。

その結果、長良川や飛騨川では、氾濫危険水位を超過することとなり、特に長良川支川の津保川では、住家が連担する多数の谷底平野で洪水が溢水・流下し、1名の方の尊い命が奪われ、多くの家屋浸水被害が発生するなど、甚大な被害が発生しました。



津保川（関市上之保地内）護岸被災状況

しかしながら、過去の水害を踏まえて実施してきた治水事業が効果を発揮し、浸水被害を防いだ河川も複数ありました。

長良川では、平成18年から平成22年度まで床上浸水対策特別緊急事業で河道掘削等を実施しました。今回の洪水は、長良川流域で家屋浸水25戸等の浸水被害が発生した平成11年出水と同規模の出水でしたが、水位を約0.5m下げる効果があり、浸水被害は発生していません。



平成11年長良川浸水状況（関市池尻）

また長良川支川である曾部地川でも、平成18年から平成22年度までに床上浸水対策特別緊急事業で河道掘削等を実施しました。今回の洪水は、曾部地川流域で家屋浸水102戸等の被害が発生した平成16年出水と同程度の雨量が観測されましたが、水位を約1.0m下げる効果があり、浸水被害は発生していません。

その他、県や国が整備を進めた排水機場や排水ポンプ車により浸水被害を軽減しており、今回の降雨では、約5,560万 m^3 （東京ドームの容量の約46倍相当）を排水しました。

こうした効果を踏まえ、今後も、計画的にダムや河

川改修等のハード整備を進める必要があります。

また、危機管理型水位計の増設、通常型水位計も含めた避難判断の参考となる水位の設定、水害リスクの高い地区を示した「水害危険情報図」を県管理の全河川で簡素な方法で作成する等、県民が主体的に避難して命を守っていただけるよう、ソフト対策を進めていく必要があります。

本県では、こうした水害対策を進める他、県民協働による河川の維持管理や自然と共生した川づくりを進めていきます。

中部地方治水大会の開催

さて、10月24日（水）に平成30年度中部地方治水大会を岐阜市で開催いたします。

開催地の岐阜市には、織田信長で有名な岐阜城や鶺鴒、歌手美川憲一さんの「柳ヶ瀬ブルース」でおなじみの柳ヶ瀬を含む岐阜県一の繁華街等もございますので、ご来県の際にはお楽しみいただければと思います。

また、本県の北部まで足をのばしていただければ、観光で有名な「飛騨高山」や、日本三大名泉の「下呂温泉」、世界遺産である「白川郷」などをご堪能いただくのもよろしいかと存じます。

多くの皆様のご来場を事務局一同、心よりお待ちしております。

近畿地方治水大会の開催について

平成30年10月31日(水) 13:00~
大津市 琵琶湖ホール
事務局：滋賀県土木交通部流域政策局

平成30年度近畿地方治水大会の事務局を担当します滋賀県から、県のPRと大会のご案内をさせていただきます。県内外から多くの皆様のご参加をお待ちしております

滋賀県のすがた

滋賀県は日本列島のほぼ中央に位置し、4,017.38 km²の面積を有しており、国土の1%を占め、47都道府県中38番目の大きさで、北は福井県、東は岐阜県、南東は三重県、西は京都府と接しています。日本海側の若狭湾と太平洋側の伊勢湾・大阪湾の湾入によって形づくられた地峡部に当たります。

中央部に日本最大の湖である琵琶湖があり、周囲を伊吹、鈴鹿、比良、比叡などの山々に囲まれ、近江盆地を形成しています。面積は、670.25km²で滋賀県全体の面積の約6分の1を占めています。琵琶湖の周辺はこれらの山々から流れ出る大小の河川が扇状地や三角州をつくりながら湖に注ぎ、特に姉川、愛知川、日野川、野洲川、安曇川などの下流の平野は、近江の穀倉地帯と呼ばれています。



近江八幡の水郷（八幡振）

河川の現況

本県の一級河川は510本(直轄13河川含む)あり、岐阜県境の木曾川水系藤古川、福井県境の北川水系北川(天増川)、寒風川、棕川の4河川を除くと、全て淀川水系となっています。

一級河川のうち、直轄河川管理区間は13河川67.470km、指定区間は505河川(うち4河川は湖沼)2,256.367kmで合計2,323.837kmにも及びます。

また、琵琶湖に直接流入する一級河川は117本ありますが、琵琶湖から流れ出る河川は、瀬田川の1本だけです。



琵琶湖（竹生島）

近年の災害と事業実施状況

平成25年9月の台風18号では記録的な豪雨となり、全国で初めて滋賀、京都、福井の3府県に大雨特別警報が発表されました。県内の避難指示・勧告対象者は159,338人におよび、土砂災害で1名の方が亡くなられ、全壊・半壊など1,200棟を超える住家被害が発生しました。

公共土木施設においても、河川堤防の決壊、法面の崩壊、土石流の発生、道路損壊や道路の通行規制等、県内全域で甚大な被害が発生したところ です。

過去には、平成17年1件、平成21年0件、平成22年2件など災害が比較的少ない年もありましたが、平成25年は296箇所約68億円の被害金額となり、これは平成2年の654箇所約89億円に次ぐ20年ぶりの甚大な規模となっています。

この災害を受け、鴨川では、災害復旧助成事業の採択を受け、改良復旧を実施したところ です。



平成25年 高島市鴨川 (台風18号 9月16日)

当該災害復旧事業の実施に当たっては、多自然川づくりアドバイザー制度を活用し、治水の観点だけでなく、生物・生態学の見地から多面的に検討のうえ事業計画を策定し、緩傾斜護岸の採用や、積ブロック護岸の天端が目立たないように覆土し草地とするなど工夫しています。

＜一級河川鴨川 災害復旧助成事業＞

事業延長:L=3,200m 事業期間:平成25～29年度



平成26年度 竣工 (高島市鴨～野田)

平成29年8月には、台風5号が長時間にわたり県内に留まり、姉川上流で累加雨量300～350mmを観測、姉川にある全7箇所の水観測所において2001年以降最高の水位を観測し、近年の実績を上回る水位上昇(毎分2cm程度)を記録しました。この急激な水位上昇により、道路切り通し部の締め切り作業が間に合わず溢水し、床上浸水1棟、床下浸水15棟などの被害が発生しました。

また、平成29年10月には、台風21号が超大型で非常に強い勢力を保ったまま接近したため、東近江市桜川東で観測史上1位(217.5mm)の日降水量を観測、近傍の日野川が計画高水位を超過するなど、河川水位が高い危険な状態が継続しました。日野川の水

位上昇に伴い、流入する祖父川などの流下阻害が生じ、支川の中津井川や新川の流域で内水氾濫が発生、新川ではバックウォーターにより越水による決壊等が生じました。

近年、全国各地で豪雨が頻発・激甚化する中、ハード・ソフト対策した「水防災意識社会の再構築」への取組が全国で進められています。

本県においても、どのような洪水にあっても人命を守り、壊滅的な被害を防ぐことを目標に、ハード対策である川の中の対策を基幹の対策としつつ、川の外の対策であるソフト対策も連携させて被害を減じる「しがの流域治水」の取組を進めてきたところです。今後も治水の基幹の対策である河川改修や維持管理を計画的に進めるとともに、避難体制の整備などソフト対策についても着実に進めてまいります。

近畿地方治水大会の開催

10月31日(水)に大津市内において近畿地方治水大会を開催いたします。

特別講演では、「近年の豪雨災害と気候変動への影響予測・適応について」と題し、京都大学防災研究所教授の中北英一様にご講演をしていただくこととなっております。

最後にはなりますが、雄大な自然や貴重な文化財をはじめ、たくさんの魅力であふれている滋賀県に是非ともお越しください。

四国地方治水大会の開催について

平成30年10月26日(金) 13:30~
徳島市 徳島グランヴィリオホテル
徳島県 県土整備部 河川整備課

今年度の四国地方治水大会事務局を担当している徳島県から、本県のPRも含めご案内申し上げます。関係者の多数のご参加をお願いいたします。

徳島県のすがた

徳島県は、総面積が約4,145km²で、四国の東の端に位置し、北は香川県、南は高知県、西は愛媛県と接しており、北東部から南東部にかけては瀬戸内海を隔て近畿地方と向かい合っています。

地勢は山地が多く、その中央部を東西に四国山地が走り、1,000m級の山々が県土を南北に2分しています。この山地の南面が森林地帯で形成される等、県土の約8割が森林で覆われています。

中でも1,955mの剣山は西日本第2の高峰であり、高山植物をはじめ豊かな自然を育んでいます。

四国山地の南北にはそれぞれ那賀川と吉野川の一級水系が西から東へ向かって流れています。特に北側を流れる吉野川は、「四国三郎」とも呼ばれる日本有数の大河川で、河口部では肥沃な徳島平野が形成されています。



吉野川河口域

河川の現況

徳島県には、東西に流れる吉野川、那賀川及びこれらの支派川で形成する一級水系のほか、四国山地から東流して太平洋に注ぐ数多くの二級水系があります。

本県の一級河川は、吉野川、那賀川水系の368河川であり、総延長は約1,520kmとなります。また、二級河川は39水系の129河川であり、総延長は約

440kmとなります。

河川の形状は、四国特有の急流河川であることから流出が非常に速く、過去から洪水による数々の災害が引き起こされています。

河川の特徴として、吉野川の北側に流れ込む各支川では、鉄砲水といわれる出水が発生し、崩壊性に富む山地土砂を流掃することにより、その多くが天井川となっています。

吉野川下流の各支川は、流路の変遷が幾度となくなされており、その流域のほとんどが平坦地で、河川勾配も緩やかなため、洪水時には本川(吉野川)水位の影響を受け流下が滞る内水問題を持つ河川が数多くあります。

那賀川水系及び県南の各河川は、その流域の複雑な山地地形の影響や、台風の常襲地帯でもあることから、しばしば局地的な集中豪雨を受け、比流量が大きいといった特徴を持っています。

また、紀伊水道に面した吉野川、那賀川の両デルタ地帯に広がる臨海部の平野は、南海トラフ地震等により地盤が沈下したため、この地域の河川は高潮の影響を受けやすくなっています。

近年の浸水被害と今後の取り組み方針

近年の主な水害としては、平成26年8月台風12号の影響により、吉野川流域で、総雨量1,400mmを超える降雨を観測し、池田地点では「氾濫危険水位」を超えて戦後第4位となる水位に到達し、沿川において約112haの浸水被害が発生しました。

引き続き県内を縦断した台風11号でも、那賀川流域において1,700mmを超える降雨を観測し、昭和30年(1955)からの観測史上最高となる水位を記録して、流量は戦後最大を上回りました。



平成26年台風11号浸水状況（那賀町和食地区）

この2つの台風の影響により、県内で約3千戸にも上る家屋浸水被害が引き起こされました。

なお、那賀川流域では平成27年にも、台風11号に伴う豪雨により、観測史上4番目となる流量を記録するなど、2年連続して甚大な浸水被害に見舞われました。

この水害を契機に、平成27年度から、国においては阿南市加茂地区で、県においては那賀町和食・土佐地区で、「床上浸水対策特別緊急事業」により、集中的に河川整備に取り組むとともに、住民の迅速かつ確実な避難行動に繋がるよう地元市町や国・県等が連携して「洪水タイムライン」を作成・運用するなど、ハード・ソフトを総動員して再度災害防止に努めております。



平成26年台風11号浸水状況（阿南市加茂地区）



阿南市加茂地区 河道整備進捗状況（H30.8月）

一方、本県では、このような気候変動により、一層頻発・激甚化する水災害に対応するため、県民の安全・安心に直結する治水を最優先に掲げた「徳島県

治水及び利水等流域における水管理条例」を平成29年度から施行しており、「治水」「利水」「水循環・環境」に「災害対応」「水教育」を加えた5本柱のもと、各施策を展開しております。

四国地方治水大会の開催

特別講演には、西日本を中心に多数の犠牲者を出し「平成最悪の豪雨被害」をもたらした「平成30年7月豪雨」において、人的被害が大きくなった要因の一つと考えられる「住民の避難行動」について、徳島大学創新教育センターの金井純子さまから御講演いただくこととしておりますので、是非、御聴講ください。

開催地となります徳島県には、「吉野川」をはじめ、世界最大級の大きさを誇り世界遺産登録を目指している「鳴門の渦潮」や名峰「剣山」などの、「豊かな自然」とともに、「阿波おどり」をはじめとする「類い稀な伝統文化」や本県特産の「すだち」の他、「なると金時」、「鳴門わかめ」や全国一の地鶏生産量を誇る「阿波尾鶏（あわおどり）」など新鮮で安全・安心を誇る「豊富な食材」といった、素晴らしい「宝物」があります。



世界最大級の大きさを誇る「鳴門の渦潮」

特に、吉野川の恵みを受け、江戸時代に徳島で大きく発展した「藍」が醸し出す「ジャパンプルー」は、「東京オリンピック・パラリンピック」エンブレムのデザインカラーに採用され、今、「阿波藍」は国内外から大きな注目を集めております。このため「とくしま藍の日を定める条例」を制定し、藍文化の継承、藍産業の振興等を図るなど、徳島の総力を結集した取り組みを推進しております。是非、皆様も、この「阿波藍」の限らない魅力に触れて頂ければと思います。

最後に、四国八十八ヶ所霊場の遍路文化で培った「お接待」の心で、皆様を温かくお迎えさせていただ

だきますので、この機会に是非、本県にお越し頂き、「宝の島・徳島」の魅力を存分に体感して頂ければと思います。

皆様のご参加を心からお待ちしております。



「藍とくしま」ロゴマークと「組藍海波紋（くみあいがいはもん）」

九州地方治水大会の開催について

平成30年10月23日(火) 14:00~
大分市 大分県労働福祉会館
大分県土木建築部河川課

平成30年度の九州地方治水大会の事務局を担当します大分県から、九州地方治水大会のご案内をさせていただきます。関係各位の多数のご参加をお願いいたします。

大分県のすがた

大分県は九州の北東部に位置し、県土面積は約6,341km²、総人口は約115万人で、18市町村から構成されています。

温暖な気候に恵まれ、海や山などの豊かな自然、その中で育まれた新鮮な食材、宇佐神宮や六郷満山、国宝臼杵石仏をはじめとした磨崖仏などの貴重な歴史的文化遺産など多くの地域資源を有する大分県ですが、なんとといっても県内全域に広がる温泉は、日本一の湧出量と温泉数を誇り、地球上にある10種類の泉質のうち8種類を有しています。

さらには、「The・おおいた」ブランドとして、関あじ・関さば、豊後牛などの高級食材をはじめ、カボスやしいたけなど四季折々の素晴らしい食材も満載です。



(湯布院温泉から見た由布岳)



(豊後水道の関あじ、関さば)

河川の現況

県内の一級河川は、日本三大修験山の一つ英彦山に源を發し景勝地名勝耶馬溪を流れ、下流域で福岡県境となる「山国川」、由布岳に源を發し由布院盆地を貫流し県中部を流れる「大分川」、宮崎県境の祖母山と阿蘇外輪山に源を發し臨海工業地帯に多くの工業用水を供給する「大野川」、県南部を流れる九州屈指の清流「番匠川」、佐伯市宇目周辺の水を集め日向灘に注ぐ「五ヶ瀬川」、水郷日田を流れ有明海に注ぐ九州最大の「筑後川」の6水系374河川で延長2,075km、二級河川は93水系211河川で延長約989km、合計99水系585河川で延長約3,063kmです。

この一、二級河川の延長は九州では一番長く、全国でも12番目です。

近年の浸水被害と取組状況

本県における最近の主な浸水被害は、平成2、5、9、24、29年に発生しており、特に平成29年は、7月の九州北部豪雨と9月の台風第18号の2度の甚大な浸水被害が発生しました。

(1) 平成29年九州北部豪雨

平成29年7月九州北部豪雨では、大分県で初めて「大雨特別警報」が発表されるなど、局地的に1時間100ミリを超える猛烈な雨が県西部を中心に降り、死者3名、床上・床下浸水1,507棟にのぼる甚大な被害が発生しました。大規模な山腹崩壊により河川、県道



が埋塞した日田市柳野地区では、死者1名、家屋倒壊7戸、床上浸水10戸の甚大な被害が発生しました。この一連の災害に対しては、災害関連緊急地すべり対策事業と整合を図りつつ、河川、道路は原形復旧不相当として付替えによる災害復旧を進めています。

○柳野地区斜面对策(災害関連緊急地すべり対策事業)集水井工4基、アンカー工等

○県道宝珠山日田線(道路災害復旧事業)
復旧延長:L=520.0m

○小野川(河川災害復旧事業)
復旧延長:L=520.0m

この他、被害の大きかった河川の復旧についても、再度災害を防止する観点から河川改修事業及び改良復旧事業の採択がされました。①大肥川(河川災害復旧等関連緊急事業)事業区間:L=8.1km ②鶴河内川(災害復旧助成事業)事業区間:L=4.2km ③小野川(河川災害関連事業)事業区間:L=2.6km ④有田川(河川災害関連事業)事業区間:L=4.2km

(2) 台風第18号

平成29年9月の台風第18号では、記録的短時間大雨情報が計4回発表されるなど、県南部を中心に甚大な被害が発生しました。特に津久見市では中心市街地がほぼ全域で浸水し床上・床下浸水987戸となる大きな被害が発生しました。

この災害からの復旧については、河川激甚災害対策特別緊急事業により河道拡幅や築堤等を行うこととしました。

○津久見川・彦の内川 事業区間:L=2.5km



(3) 竹田水害緊急治水ダム建設事業

平成2年7月梅雨前線豪雨では、竹田市街地を貫流する玉来川、稲葉川が氾濫し死者5名、床上・床下浸水1483戸に登る大きな被害が発生しました。これ

を契機に「竹田水害緊急治水ダム建設事業」として稲葉ダムと玉来ダムの建設に着手しました。稲葉ダムは平成22年に完成したところですが、現在は平成34年度の完成を目指して玉来ダムの建設工事を進めているところです。



(4) 水防災意識社会再構築に向けた取組み

県下各地域に「大規模氾濫減災協議会」を設立し、地域毎の取組方針を策定したところです。特に九州北部緊急治水対策プロジェクトの推進項目である「危機管理型水位計」については、今年6月までに46箇所を設置を終えたところです。

最後に平成24年九州北豪雨災害を受け改良復旧事業等の対策を行った日田市中心部や稲葉ダムが完了した稲葉川下流域ではその整備効果をはっきり現れたところです。今回、甚大な浸水被害に見舞われた箇所でも再度災害防止・軽減を目的とした改良復旧事業による治水対策を推進していきます。

九州地方治水大会の開催

さて、10月23日(火)に平成30年度九州地方治水大会を大分市で開催いたします。この大会では、九州大学名誉教授の小松利光様に、最近の豪雨災害から得られた教訓と今後の対策について講演していただきます。

そして、この大会が開催される10月23日は、「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」(10月6日～11月25日)の期間中で、県内各地で様々な催しが行われています。

また、来年の「ラグビーワールドカップ2019」では準々決勝2試合を含む計5試合が大分県で行われます。

皆様におかれましては、この機会に「おんせん県おおいた」へお越しいただきますことを、心からお待ちしております。

